

所沢市議会基本条例の 改定に係る調査報告

2015年11月26日 於 所沢市議会

廣瀬 克哉（法政大学教授）

これまでの達成：議会改革は“当たり前”になった

- ・議会基本条例700本
 - ・2006年5月から9年 2015年第2回定例会まで
- ・議会改革は着実に普遍化
 - ・議会報告会の開催（2014年に実施＝572議会）
 - ・「議会への市民参加」理念の普及
 - ・一問一答、反問権、自由討議など審議の活性化
- ・制度整備
 - ・通年議会、議決事件の範囲拡大（法定受託事務も）

議会基本条例の見直し状況

- ・議会基本条例の改正を1回以上経験した
 - ・243議会（15.6%）
- ・改正内容は技術的なものも多い
 - ・政務調査費から政務活動費へ 172
 - ・議決事件の追加（基本構想） 72
 - ・議会への住民参加 22
 - ・協議・政策審議のための組織 9
 - ・議会の附属機関や調査機関 5

議会基本条例の実質的な見直しは まだごく少数

残念ながら条例のための条例が少
なくない

実際に活用している自治体で
実践的に課題となった項目を補充

所沢市議会の基本条例制定後の取り組みの特徴

自己評価の実行と公開

- ・議会基本条例の運用実績の評価を行っている議会は少ない
 - ・条例制定議会の 12.9% 63議会
 - ・その評価結果を公表しているのは 4.7% 23議会
- ・議会自身にPDCAサイクルを「自然に」備えていることは特筆すべき
 - ・とはいえ、課題はそれによつて的確な改善が実現されていくこと

市民参加手段の「フルセット」の活用

- ・同一案件でのセットでの使用
 - ・参考人招致
 - ・傍聴者からの意見聴取
 - ・パブリックコメント
 - ・公聴会
 - ・公開フォーラム
- ・議会発案ではないが一連の流れの後に住民投票
- ・また専門的知見の活用も全国でトップクラス

広聴広報委員会を軸とする発信強化

- ・議会広報のレベルアップ
 - ・分かりやすさを意識した工夫
 - ・街頭での広報などの積極的な発信姿勢
 - ・キャラクターの採用などの広報戦術
 - ・広聴への意識の確立
 - ・インターネットによる発信の積極化

所沢型の議会報告会

- ・ 要望陳情中心型ではない内容
 - ・ 政策の報告が軸
 - ・ 市民からの質問、意見も政策的内容が多い
 - ・ 「とてもあの報告会をうちの議員にはさせられない」
「よくあの質問に議員が政策解說的に答えられる」
(視察に来訪した某議会随行の事務局員談)
- ・ 参加者数、世代、成果には課題も

**所沢市議会基本条例の改定に向けて
期待されること**

今日の報告の考え方

- ・ 目的意識の明確化優先
 - ・ 目的の確定後に手段の選択、設計ができる
 - ・ 例) 通年議会
 - ・ それによって何を実現するのか
 - ・ それにふさわしい通年議会の設計
- ・ 運用理念は条例化してもしなくても実現できるが……
 - ・ 運用強化を制度的に確定するための条例改定は有効
 - ・ 例) 委員会の強化を柱とする

議会の政策機能強化

- ・政策討論会
 - ・討論会の最終目的は？
 - ・発表された諸政策はその後どうなるの？
 - ・実際に策定する政策の立案にならないの？
- ・政策の専門的サポートの制度化
 - ・事務局強化に加えて
 - ・外部のリソースを活用する受け皿の整備
- ・議会起点の政策サイクルの明確化

議会の論点発信力強化

- ・個々の議員の論点提起力は高い
 - ・質問、質疑は現状のままでは個別的にとどまる
 - ・レベルが高いために市民に分かりやすくなるまでこなれない面も
 - ・議会の政策判断にどのようなにつながり、位置付いたかが明確にされる場をもつべき
- ・論点整理、確認の時間を議事として設定する
- ・議会がいつ、どんな重要政策を判断していくのかの明示
 - ・参考) 大津市議会ミッションロードマップ